

EE-11 住宅の選定条件に関する研究(その3)一現住宅への満足度と永住意志一
近大女短大 坂本久子

目的、人のさまざまな生活の基点である住宅が動的な傾向を示しつつある現在において、人々が住宅を求めようとする時、一体どのような条件を考えて住宅を定めようとしているのかを知ることは、今後の住環境、住生活を考えてゆく上の一助となると思ひ、本研究を行なったものである。

筆者は先に日本家政学会九州支部会において、現在の住宅の選定条件、将来の住宅の選定条件について発表したのち、今回は現住宅への満足度と永住意志について報告する。

方法、調査対象は福岡市原田地248戸を、アンケート用紙による戸別聞き取り調査を行なった。調査期間は昭和44年7月。

結果 1. 現住宅について半数弱が満足しており、満足な点については、「住居内か生活するのに便利に出来ている」や「カギ一つで外出出来る便利さがある」などが多く答えられている。また不満な点としては、「せまい」「階段の上り下りが苦痛」などが答えられており、アパート住宅の良い面も悪い面もあげられている。

2. 永住意志については、67%が永住の意志がなく、その理由としては、「転勤の可能性が大きいから転勤まで」を半数強の人があげており、具体的な居住年数については、わからない人が多い。